

藤野やすふみ前衆議院議員、6月再度の被災地視察調査

藤野やすふみ能登半島地震被災者共同支援センター所長は、6月23日に続いて、6月29日も被災地の視察を行い、被災者との対話、要求の聞き取りを行いました。能登半島地震から半年になるのに仮工事のままになっている輪島市野町国道278号線の崩落した現場の「仮止めの工事」と道路の実態を視察しました。

輪島市南志美の仮設住宅の女性からの話を聞き「自宅が壊れて、2回審査したが『準半壊』のままの判定。何とか修理して戻りたい」と。この仮設住宅はプレハブではないが、2人で6畳は『狭い』。でも『私はお父さんと2人だからまだいいけれど、1人の人は話し相手もおらん』切ない」と話されています。

輪島市町野町の在宅避難者の深刻な実態も聞きました。「3月まで金沢市の孫の所に身を寄せていた」と

いう。今は被災地に戻って息子さんと暮らすと話し、元日の揺れの時は「怖かった」と。外からは新しい家に見えるが、中に入るとあちこちにヒビが入っており、深刻な被災の実態を見ました。

珠洲市大谷で地震で自宅は住めないで仕事場の工場で暮らす方からお話を聞きました。「半年経つが殆ど変わってない」「応急修理の助成金の期限が年内いっぱい。私も3つほど(応急修理の仕事)抱えているが、年内では工事が間に合わない。助成期間を延長してほしい」などの声でした。

さらに、珠洲市大谷の10数人が暮らす一次避難所で話を聞きました。「水道開通はこの避難所まで。周りの人は避難所のトイレを使っている」。市は8月に仮設住宅ができると言ったが、被災者の一人は「無理だろう。重機が通れる道がないから」と。それなのに来月にもこの避難所を閉じるという話です。本当に信じられない。仮設住宅の建設の遅れ、被災者

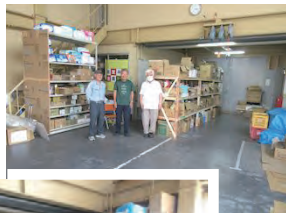
支援の遅れは深刻です。



現在も避難所の大谷小中学校体育館

全国からの支援物資もスッキリと整理

宮城県から事務局の支援で来ていただいている、西城さん(大工の経験があり)が、大きな棚を2カ所に作製してくれ、全国から送っていただいた支援物資もスッキリと片付き、倉庫部分のスペースに余裕ができました。



能登半島地震被災者共同支援センターに
 全国から支援の輪広がる

この間のボランティアに駆けつけていただいた皆さんを紹介いたします。

6月の20日以降6月末までに、富山県呉西地区の皆さん、大阪八尾市のKさん、兵庫のHさん、大阪2区地区の皆さん、神奈川県委員会の皆さん、神奈川県川崎市南部地区の皆さん、長野県の青年の皆さん、京都府福知山のKさんご夫婦、広島県対連の皆さん、和歌山県第三次ボランティアチームの皆さん、石川県加南地区の皆さん、長野県民の会の皆さん、愛知県岡崎市の皆さん(八田ひろ子元参議院議員)、石川県金沢地区の皆さん、和歌山県北部地区の皆さん、兵庫県西脇市の皆さん、兵庫県加古川市の皆さん、各市議さんなど多くの方々你能登半島地震共同支援センターのボランティア活動に参加していただきました。ありがとうございました。

さらに「災害被災者支援と災害対策改善を求める全国連絡会」全国対連の皆さんも、活動に参加されています。